

浸水の本社・工場 再整備



ミールケアが再整備する本社一帯のイメージ図

給食受託サービスのミールケア(長野市)は、昨年10月の台風19号災害で浸水した長野市穂保の本社やパン工場を高さ1・5〜3級の盛り

長野のミールケア 盛り土で囲み植栽

パン生産能力 3割増強へ

り土で囲み、多種多様な木を植えて林を整備する。風水害に備えつつ、地域住民や来店客が憩える空間をつくる。来春の再稼働を目指すパン工場は生産能力を3割引き上げる。倉庫に使っていた建物を解体し、駐車場の一部の舗装をはがして約3畝の敷地を囲むように盛り土をする。果樹を含む数千本の木を植栽。子どもたちを招いて苗木を植えるイベントも開く予定だ。盛り土と林により、風水害の被害を軽減し、従業員や来店客が逃げる時間を稼ぐ効果が期待できるとする。2階建ての管理棟は解体して3階建ての新棟を建設し、最上階は水害の際に従業員や来店客の避難スペースにする。パン工場と直営レストランが一体

になった建物は、工場のスペースを拡大。最新の設備を入れ、月産30万個から40万個に引き上げる。衛生管理の国際基準「HACCP(ハサップ)」にも対応。ガラス張りにして来店客が見学できるようにする。パン工場は来春の稼働を予定し、レストラン再開は新型コロナウイルスの終息後に検討する。林の整備、建物の改築にかかる費用は約5億円。国などが災害復旧を支援する「グループ補助金」や、ハサップ対応の施設整備を対象にした補助金を活用する。同社の2020年3月期の売上高は約65億円の見込み。水害で穂保の工場の生産がストップしたため、上水内郡信濃町の子会社の菓子工場が昨年10月末にパンの製造を再開したが、生産能力が足りていない。新たに長野市内の空き工場を借りて4月中にパンの製造を始め、来春までの臨時拠点とする。

軽量・低重心の無線操縦式草刈り機

精密部品切削加工の牛越製作所(岡谷市)が、急傾斜地で使える無線操縦式の草刈り機の開発を進めている。軽量化と低重心化を図り、急斜面での走行が安定しているのが特長。販売やレンタルを視野に、2020年内に事業化の道筋を付ける計画だ。同社は、農業の省力化を目指す県のプロジエクトで

ビジネス交差点

牛越製作所(岡谷)

15年手。の発的な一方、山間倒の式も大きい手

援求める

雇用維持へ一定評価

政府が新型コロナウイルスの感染拡大に伴う総額108兆円の緊急経済対策を決定した7日、県内の経済関係者からは雇用維持に一定の効果を見込む声があった一方、売り上げ急減をカバーするには不十分との指摘も出た。当座の資金確保が中小企業や小規模事業者の命運を握るとし、申請手続きの簡略化や支給の迅速化を求める声も目立った。

売上げが減っても雇用を維持する企業に休業手当を補助する「雇用調整助成金」は、

「申請手続きがやや煩雑だ」と漏らす。また、

「二元的現金が少なく厳しい状況なので、スピードを上げてほしい」と注文する。

「ほしい」と求める。松本ホテル花月(松本市)では関連した損失額は2億円を超えると見込む。松岡一成専務は「給付金はないが、自社の規模ではほとんど何も賄えない」とぼす。税金や社会保険料の支払いを猶予する制度についても「結局は負担を先延ばしするだけ。多少なりとも減免してほしい」と要望した。

資が必要だ」と訴える。県中小企業団体中央会の佐々木正孝専務理事は「雇用維持の施策が手厚くなるのは評価する」と肯定的に受け止める。親湯温泉2施設きょうから休館

温泉旅館経営の親湯温泉(茅野市)は7日、諏訪地方で新型コロナウイルスの感染者が複数人確認されたこと

信州発